

教科	科 目	単位数	学年・クラス
共創	トライブ・ラーニング I	1	2 年

1 使用教材

使用教科書	「伝わるプレゼンの法則 100」「佐田岬民俗ノート 2」
出版社	大和書房、佐田岬半島ミュージアム
副教材等	－
出版社	－

2 学習の目標

1	課題に対して自分の考えを適切に整理し、聞き手にわかりやすく伝えるための技能を養う。
2	SDGs・持続可能な地域づくりの観点から課題解決方法を考える力（デザイン力）を養う。
3	自分の住む地域だけでなく日本全体の課題に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

3 評価の観点・方法

評価の観点	内 容
① 知識・技能	学習内容を自分ごととして捉え、探究活動に意欲的に取り組むことができる。
② 思考・判断・表現	必要な情報を適切に収集・分析することで、自分の考えをまとめた上で表現することができるとともに、他者と協働しながら探究活動を行うことができる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	学習した内容を踏まえ、課題の解決やより良い集団作りのために自分にできることを理解し、実践することができる。

評価方法	観点別重要度			主な評価項目
	①	②	③	
授業への取組	A	A	B	授業態度など
提出物・作品	A	A	C	指示した時期に提出
発表・プレゼン	C	B	A	内容ごとに実施

※表中の A・B・C は評価の重要性を高い順に表している。

4 学習計画

学期	学 習 内 容	学習のねらい
1 学期	オリエンテーション スタートアッププログラム 「書いて伝える」 スピーチ① 高大連携（愛媛大学・APU）	書くことで自分の思いや意見を整理し、他者にわかりやすく伝える力を伸ばす。 目的や相手に応じて、適切な表現や構成を工夫して書く力を身につけさせる。 聞き手や場面を意識して、言葉遣いや話し方を工夫する力を高める。声の大きさ、速さ、抑揚、間の取り方などを意識して話をさせる。 自分の意見や思いをもつことの大切さを理解し、発信する力を伸ばす。 友だちのスピーチをよく聞き、内容や表現のよさに気づく態度を育てる。聞き手としても学ぶことで、表現の幅や視点を広げる。
2 学期	プレゼンテーション 高大連携（愛媛大学・APU） 『今を創る、未来を変えるトライブ』	目的や聞き手に応じて、伝える内容を整理し、わかりやすく構成する力を育てる。図や表、写真、スライドなどを活用し、効果的に情報を伝える力を養う。 聞き手の反応を意識し、話し方や表現を工夫する力を身につける。声の大きさ、話す速さ、目線、ジェスチャーなども意識して発表する。 協働して資料を作成したり、役割分担して発表したりする中で、コミュニケーション力を高める。グループ活動を通じて意見を調整し、よりよい発表に向けて協力する力を育てる。 話し合いを通して意見を調整し、よりよい企画を作り上げていく協働的な学びを促す。 問題が生じたときには自ら考え、仲間とともに解決しようとする態度を育てる。
3 学期	スピーチ① 高大連携（愛媛大学・APU） 学習のまとめ	相手の理解や反応を意識し、わかりやすく魅力的に伝える表現力を高める。 多様なテーマに対して自分の視点を持ち、社会や他者とつながる発信力を育てる。 発表とフィードバックを通して、自らの表現を省察し、改善していく姿勢を養う。 自己評価や相互評価を適切に行い、自らを客観的に振り返る機会とする。